

第6回 桜町3・4丁目周辺地区【桜町地区】まちづくり協議会

日時：①令和2年10月17日（土）10時～12時

②令和2年10月24日（土）10時～12時

参加者数：14名（①：3名、②：11名）

【まちあるきの記録】

①10/17開催（天気：雨）

まちあるきの振り返り

（道路の現況）

- ・桜町4丁目8番地の辺りは、住宅は整っているが電柱も地中化されると良かった。
- ・桜町4丁目8番地の辺りは、個性はあまりないがまちなみは整っている。
- ・江川を渡れる道が何本かあると、災害時の避難が円滑になる。ただし、広い幅員は必要ない。
- ・A路線は、6mでは広すぎるかもしれない。

⇒4mでも隅切りが整備されていなければ市道認定できない。（市）

⇒地区計画のルールを定めておく方法も考えられる。

- ・6mに拡幅と併せて交通安全対策が必要。

⇒桜町4丁目8番地の辺りは、幅員6mあるが道路が貫通していないため車通りを制限できている。

⇒6mに拡幅した場合、地域のコミュニティが分断されることもあるため道の作り方は要検討。

- ・バス路線を引き込めると便利になる。

（建物の現況）

- ・桜町4丁目8番地の辺りに地区計画がかかっていることを知らなかった。

（敷地の現況）

- ・最低敷地面積のルールを入れて敷地を拓げる方向が良い。その際、隣地の買い取る場合の補助もセットであると良い。

⇒隣地が空いたが金銭面で購入できず断念する方が実際にいる。

- ・現状の敷地では、建替えが難しいエリアがある。

（その他）

- ・空き地や空き家になった場所は、活用できそうであれば市で買って用地にできると良い。

- ・浸水対策として住宅の嵩上げが考えられるが、高さ制限も考慮する必要がある。

- ・江川の浸水対策として、現状ではエリアでの計画的な浸水対策ではなく個人の判断で嵩上げ等しているだけであるため、地域全体での対策を検討しなければ解決は難しい。現状はイタチごっこになってしまっている。

- ・江川氾濫への対応策の一つとして、排水システムの確立が考えられる。排水ポンプ場を整備し、ポ

ンプで排水するシステムをつくりあげるなど。

- コンクリート壁で堤防を造って、氾濫を防ぐ方法も考えられる。

⇒川の上流、下流それぞれで氾濫しないように、川全体で考える必要がある。

- 江川の管理状況（今後整備する時期の目安など）は市で確認する。（市）

まちづくりの方向性について

- 江川の改修について、根本的な部分は未解決であり市内の関係部局との調整が必要なため、協議会では河川改修を見越したまちづくりを考えるのが良いのでは。

【まちあるきの記録】

②10/24 開催（天気：晴れ）

まちあるきの振り返り

（道路の現況）

- 道路が狭いのが一番の課題であると、改めて実感した。3丁目の中でも公園の北側周辺が特に狭い。
 - 路面状態が悪い箇所が地区内に多数ある。
 - 私道の、路面状態の改善や安全性の確保が課題である。
- ⇒隅切りがなければ市道認定ができず、地区計画で隅切りのルールを定めることで、誘導できる。
- 4mの道路でも、隅切りが整備されるだけで、道幅は大きく広がる印象である。
 - 検討路線について、一律で6mとするのではなく、沿道で宅地が密集している部分は、4mと6mの組み合わせで考えても良いのでは。
- ⇒防災上の6m道路の必要性を説明。（市）
- 道路ネットワークとして、A路線とB路線から地区を抜ける車の流れを検討する必要がある。

（建物の現況）

- 地区内に空き家が多く、災害時の火災等が心配である。
- 道路整備と並行して、空き家問題が改善されると良い。
- 空き家の状況については、地域と連携して情報を把握していくのが良い。
- 放置されている空き家について、行政でも積極的に支援しているが、建替えられない事情や原因があるのではないかと。

（敷地の現況）

- 敷地が広ければ、セットバックしても、建て替えがしやすい。

（その他）

- 宅地の接道部分に植え込み等の緑地帯があると、災害時の通行空間としても活用できる。
- 災害時に利用できる駐車場や駐輪場があると良い。
- B路線について、知らない内に市の計画が進んでいく。住民への周知を徹底してほしい。
- 検討路線沿道の方の生活を守ることに、十分に地権者と話し合っていくことが重要である。また、代替地の早急な確保が必要である。

まちづくりの方向性

- 市内は平地が多いが、桜町は起伏が激しい土地であるのが特徴である。地形の特徴を大事にした。
 - 高低差のため水害のリスクが高いという短所を長所と捉えたまちづくりの方向性が考えられる。
- ⇒「景色に変化のある桜町」というキャッチコピーはいかがか。
- 川口市の山の手を目指したい。

- 坂のまちである長崎では、足腰の丈夫な高齢者が多いそうである。桜町でも、坂の多さを健康づくりに活かし、「歩きたくなる、散歩できるまち」という方向性が良い。
- 緑の多い住環境を誇りに思っている。また、「桜町」という名前もあり、桜の木や景観を大切にしたい。
- 「桜」をまちづくりのシンボルにしたい。老木を活用したグッズ展開も考えられる。
- 寿命ということで、桜が伐採されてしまった。伐採には反対であったが、市の説明は十分でなく、きちんと説明してほしかった

